

氏名：榎本 祥英

所属専攻・職名：工学部 物理工学科 機械システム学コース 3 回生

派遣国：アメリカ合衆国

派遣先(研究機関名)：カリフォルニア大学デービス校

受入研究者(職・氏名)：Prof Janis Williamson, International English and Professional Programs Director

派遣期間：2012 年 8 月 9 日 ~ 2012 年 9 月 3 日(26 日間)

派遣先での研究テーマ：UC DAVIS EXTENSION 京都大学 UC 実習型・夏季短期留学プログラム

(-UC DAVIS EXTENSION- KYOTO UNIVERSITY ENGLISH FOR SCIENCE AND TECHNOLOGY INTERDISCIPLINARY RESEARCH PROGRAM)

### 【研究実施概要】

今回の UC Davis への留学プログラムには工学部、農学部、経済学部の学生が参加したもので、英語と科学分野に重点を置いた3週間のプログラムであった。主な研究として、派遣された京大生が6つのテーマのグループに分かれ、それぞれのテーマに関連した3つの Site Visit を行い、そこから得られた情報から最終週のプレゼンテーションを行った。これに付随して大学でわれわれ京大生向けの講義を受けた。講義は語学としての英語を学ぶものと、英語を用いて科学的な内容を学習するものがあった。具体的には、英語の発音を学ぶ講義、Site Visit の情報をまとめて最終プレゼンテーションの準備をする講義、Hot topic について英語でのディスカッションをする講義、実際に講師を招いてその方が行っている研究などに関するレクチャーを受ける講義があった。

われわれのグループテーマは上記の「デザイン戦略とイノベーション」であり、主に製品のデザインやその中でいかにイノベーションを起こすのかということを取った。グループメンバーは自分ともう一人の工学部生、2名の農学部生、経営の院生の方3名の7人のグループであった。Site Visit ではデザイン会社である Lunar と IDEO、照明に関する研究施設である California Lighting Technology Center (CLTC) を訪問した。それぞれの訪問の前に事前調査と質問の吟味を行い、実際に訪問先でグループ全員が積極的な質問を行った。そして訪問後にもグループで集まり、情報の整理、最終プレゼンテーションへの展望を話し合った。授業外にて少々日本語での話し合いも設けたが、基本的には英語で話し合いを行った。そうしてグループで20分ほどのプレゼンテーションを作り、英語でそれをプログラム参加者全員での発表会で発表した。

また、大学での講義を受けると同時にホームステイも行った。夏季休暇中ということもあり、UC Davis への留学生が多く、ホームステイ先が不足していたため、自分ともう一人の京大生で同じホストファミリーにお世話になった。大学での講義と自宅での英語コミュニケーションの両方での英語力向上がはかられていた。

### 【研究成果概要】

前述したように、派遣先では数種類の授業が用意されており、自分はいずれも大いに達成できたと感じている。海外や英語に対してとても強い抵抗を感じていた自分を変えようとこのプログラムに参加していたというモチベーションと、現地でのスタッフの方々のサポートのおかげで、積極的に講義や Site Visit に取り組めたし何より、自分の海外経験としてのこのプログラムを有意義にすることができたと思う。教師の方々やホストファミリーとのコミュニケーションも徐々に上達していったように感じたし、グループワークに関しても所属に関係なく熱く意見をぶつけ合うことで、最終プレゼンテーションを納得のいくものにできたと思う。特に最終プレゼンテーションではただ英語で内容を読むだけでなく、いかに自分たちの発表をわかりやすく、かつ興味を持ってもらえるものにするかということにまで考えて作り上げられたことにすばらしい経験が得られたと感じている。

自分がこの留学に参加したのは先述したような抵抗感を克服したいということに加えて、自分の知識を学問にかかわらず幅広いものにするので、将来について考える材料を得るという理由もあり、あえて直接的な工学とは離れた分野を選択した。この結果として、自分の知識を押し広げられただけでなく、様々なことに対する興味を持つようになり、当初の目標も達成することができたと考えており、これを今後に生かそうという思いである。

### 【外国語のスキルアップ・コミュニケーション能力の向上，海外におけるネットワークづくり】

自分は一度海外に行ったことはあるけれど、いわゆる留学は今回が初めてであり、英語によるコミュニケーション、はたまた海外自体にも抵抗があった。だからこそ将来に国際人になれるよう、変わる機会としてこの留学に参加した。もともと英語を話すこと、聞くことは得意ではなかったが、シャイになってわざわざ来たこの留学を無駄にしてはもったいないと思ったために、積極的に教師の方々や京大からの参加者、ホストファミリーなどとのコミュニケーションに取り組んだ。最初はもちろん全く理解できないこともあったけれど、繰り返しているうちにだんだんと意思の疎通が図れるようになり、楽しくなってきたさらに上達できたように感じる。まだ自分の英語は口語的であり、文法が完璧とはいかないけれど、コミュニケーションを取れるようになったことはとても大きいと思った。

海外における人脈はあまり現地学生と触れ合える機会がなかったため、あまり築けたとはいえないが、ホストファミリーとのやり取りはあり、いつかまた再会したいと思っている。



### 【派遣の感想】

自分は夏季休暇中に行われた UC Davis への留学プログラムに参加し、今後の自分にとって大切なものをいくつも得ることができたと感じている。自分がこの留学プログラムに参加した動機としては英語力の向上とともに自分を変えたいというものがあった。自分は大学で部活動に所属しており、自分の専門分野との関係が薄いものに参加してはおらず、このままでは経験が乏しいまま社会に出てしまうと考えていた。それと同時に海外や英語で仕事をするに対して抵抗を持っており、ほぼ確実に海外とのつながりが必要であろう自分の将来を考えれば、その抵抗を取り去っておきたいと思っていた。

実際に留学に参加してみると、京大生向けの講義や、グループでの Site Visit とプレゼンテーション、ホストファミリーとのコミュニケーション、サンフランシスコなどへの観光など、とても素晴らしい経験を得ることができた。大学での講義はもちろん、その中での京大生同士の会話や、家でのホストファミリーとの会話のすべてが英語でのものであったことで、英語漬けの毎日を送り、またそれらが非常に楽しいものであったので、楽しみながら英語力を伸ばすことができたと思う。また、自分たちの "Design Strategy and Innovation" グループが訪問した企業、研究所ではエンジニアとデザイナーとが働き、素晴らしい製品を生み出し続けていることを知り、自分の将来のキャリアについての新しい展望を持つことがで

きた。これらの収穫に加えて、自分の専門とは違うことに多く触れたことで、分野を問わずに様々なことに興味を持つようになったことも自分にとって大きな変化であった。

今回の留学においてはプログラムとしてもすばらしかったが、なにより人に恵まれたと感じる。一緒に留学に参加し、互いに刺激を与え合った仲間たち、とてもフレンドリーで我々をサポートしてくださった京大・Davis 双方のスタッフの方々、まるで本当の家族のようにあたたかく接してくれたホストファミリーの皆さん、この留学中にできた関係が今後の自分にとってもすばらしいものであろうと思っている。

この留学は一ヶ月弱というとても短い期間であったが、自分がこの留学で得た経験や英語力、好奇心、人間関係はいずれも自分の人生にとってかけがえのないものになるであろうことは間違いない。